

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成19年12月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1172700492
法人名	社会福祉法人 誠由会
事業所名	グループホームハピネス狭山
所在地	350-1306 埼玉県狭山市富士見2-16-8 (電話) 04-2959-2616
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年11月30日

## 【情報提供票より】(平成19年11月13日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	10 人	常勤 3人, 非常勤 7人, 常勤換算 7人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 5階建ての5階部分
------	-------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,890 円	その他の経費(月額)	25,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(1,000,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500 円		

### (4) 利用者の概要(11月13日現在)

利用者人数	7 名	男性	0 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	入間川病院
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームはデイサービス、ケアハウスと同じビルの中で運営されている。それぞれが独自の運営をしているが、納涼祭等は合同で実施し、緊急時の連絡体制も出来ている。グループホームはビルの5階にあるが、各居室は個性を活かした作りになっており、ベランダからは富士山が見え四季を感じられる。共用のリビングは床暖房で、和と洋を取り入れた明るく落ち着いた色調の空間である。ガラス窓の外には屋上庭園が設けられ、自由に出入りができ、草花や野菜作りを楽しんでいる。家族的なホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の自己評価、外部評価の結果についてミーティング時に検討し、改善が見られる。具体的にはエレベーター前の表札に工夫が見られる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ミーティング時に理念の共有化と日々のケアについて職員一人ひとりが確認している。評価項目についても職員全員で話し合いながらチェックし、サービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>平成18年10月以降2ヶ月に1回開催している。会議の構成員は管理者、施設長、計画作成担当者、利用者代表2名、家族代表2名、地域住民代表、地域包括支援センター職員の9名である。会議で論じられた意見を職員に伝達して、検討のうえサービスを見直すように務めている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>来訪する家族や、通院介助(月1回)に来る家族の方々にはホームでの状況報告と預かり金の収支決算報告をすとも、意見や不安に思うことなどを聞いている。また運営推進会議での意見を出来る限り取り入れるように努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>小・中学校の職場体験学習を受け入れたり、高校生や大学生の実習やボランティアも受け入れている。地域の夏祭り等の行事に参加したり、施設で行う納涼祭には地域ボランティアの方々にも来てもらい交流を深めている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念をつくり上げているが、地域密着型サービスとしてより良い理念となるよう職員間で検討を重ねている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時に理念について話し合いを行い、日々のケアの中で理念に添ったケアができているかどうか確認し、サービスの質の向上に努めている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、地域の行事に参加している。小・中学校の職業体験学習も受け入れている。更にボランティアの受け入れも積極的に行い、地域との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング時に評価結果を検討して理解し合い、必要な改善に取り組んでいる。また、評価項目についても職員全員で話し合いながらチェックし、サービスの質の向上に努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年10月から運営推進会議を開催している。会議で論じられた意見を職員に伝達して、検討の上サービスを見直すように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の会議で事例検討等を行ったり、利用者の退居等、ホームの運営上困難なことがあった場合にはその都度市担当者に連絡し、相談しているなど、サービスの向上や課題解決に向けて市との連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族へは法人全体の広報紙(年3回発行)で職員の異動等を報告するとともに、グループホーム便り(年4回発行)と一緒に利用者個々の様子や状況について記した個別レターを送付している。月1回の通院介助時に家族へ預かり金の収支決算報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議(家族代表2名、利用者2名が参加)の際に意見や不安に思うことはないかなど問いかけ、課題を検討している。また、家族が来訪時に出された意見等をミーティングで検討し改善に努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が異動した場合には、十分に引継ぎの時間をとり、円滑に職員の交替が進むように配慮している。また、離職する職員に離職後もボランティアとしてホームに関わってくれるよう依頼し、利用者との関係が継続するように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は管理者研修で得た知識とネットワークを生かして、職員育成のためのシステムを構築しようとしているが、まだ職員一人ひとりの能力や経験に応じた職員育成の計画はできていない。		全職員が一律ではなく、各職員が自らの立場、経験、地域密着型サービスについての理解や実践の習熟度に応じて、段階的に力を付けていけるような事業所としての計画を作られることを期待する。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とはたまに連絡をする程度の関係で、相互に交流する機会はほとんどない。		地域の同業者と学習会や交流を持つことにより、サービスの質の向上を目指すことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者がホームの雰囲気に馴染めるよう入居時にホームのことに家族の方によく相談しながら入居の準備を進め、好みの家具や衣類、大切にしているものなどを居室に備えるなどの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、特に食事の準備(調理等)の手順や下ごしらえなどを教えてもらうことが多い。それぞれの特技を活かせるような生活を支援し、家族のような関係が出来ている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、個々の表情や言動から思いを感じ取り、本人の意向がホームの生活に反映できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人は勿論、家族が来訪した際に意見や要望を聞いて、職員のミーティング時に検討しケアプランに反映させている。また、書類がわかりやすく、きちんと整理・管理されるため、職員間で情報を共有できている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族・利用者との協力関係が出来ているので、月1回の通院介助のため、家族がホームに来訪した際話し合い、計画の見直しを検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的には家族が通院介助しているが、緊急時等必要などときには職員が通院介助をし、受診にも付き添っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族が通院介助をしているが、その際利用者に関する情報を家族に提供し、受診後は医師の診断結果や指示を確認している。緊急時は職員が受診介助を行い家族に結果報告をしている。また、利用者やその家族がホーム提携医以外の受診を希望された場合には、他の医療機関への受診が可能である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時にホームの方針を説明している。入居後も日頃より利用者の健康状態等を報告し、出来るだけ早い段階からホームで提供できるサービスについて家族に説明して相談等の支援をしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、個人を尊重した声かけに気をつけている。入浴、トイレ介助時も配慮した支援をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者全員が常に同じ行動をとるのではなく、散歩・買物等の際にはそのつど利用者と話し合っ、希望に添えるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いを把握し、食事が楽しいものとなるよう配慮している。また、食事作りや食後の下膳、食器洗いなどの片づけを利用者と職員が一緒に行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日夕食後に、希望する利用者から順番に入浴しているが、中には希望により1日おきに入浴する利用者もいるなど、利用者の希望やペースに合わせた入浴支援をしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中から個々の身体的状況や生活歴に応じた仕事を役割としてお願いし、利用者と職員がともに協力して生活するスタイルをとっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材や各自の日用品等の買物、散歩やドライブを希望に合わせて実施している。屋上庭園でくつろぐなどの支援もしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームへの入り口であるエレベーター入口(5階)は自由に入出入りできる。また屋上庭園にも施錠しておらず、自由に楽しめるように支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は毎年実施している。災害時の連絡及び協力体制が組織化しており、事務室に明示されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が偏らない献立を作成している。午前・午後にお茶の時間をつくって水分補給にも配慮した支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	内部環境・設備面に配慮がなされ、暖かく落ち着ける空間となっている。広くて明るい居間には床暖房の上に食卓、ソファー、こたつ等が備えてあり、自由に好みの場所でくつろげるように工夫されている。また、廊下、トイレ、浴室には掴みやすい手すりも設置されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の部屋には好みの家具や寝具が備えてある。大切にしているぬいぐるみや趣味の道具もあり、居心地よく過ごせるように配慮している。また、フローリングの部屋を畳敷きに改造するなど、利用者の好みに合わせている。		